

4. 成 果 本研究の結果、此の種の成型品にみられない加工の容易さと作業性をみ出すことが出来、成型の領域の広さを実証する事が出来た。

### (13) ポリエステル樹脂化粧紙ヒツトの家具への接着利用研究

1. 担当者 工業技師 末吉光雄
2. 目的 既製家具を多量生産する場合化粧板の使用が最も問題となる。最近ではポリエステル樹脂化粧紙の利用が増えているのに鑑み此の使用法および接着について研究を行った。
3. 概要 基材に相紙を貼り化粧板としてから家具を組みものと白木のまゝで家具を作り、後から木目紙を表面に接着して化粧する場合とがある

1. 基材の調整
2. 接着剤塗込み

(a) 醋酸ビニールエマルジョン 100 (b) 砥の粉 80  
 (混合例) 砥の粉 100~200 胡粉 10  
 水 少量 膠 10  
 ローラー刷毛にて均一塗布 (16~20g/30cm<sup>2</sup>)

#### 3. 方法

##### a. アイロン貼り

##### (1) 平面の場合

台板にローラーにて接着剤を塗布后、化粧紙の上にセロファン紙を化粧面において (湿度 120°~130° 相当) アイロン貼りする。

##### (2) 曲面の場合は

醋酸ビニール接着剤	6	7	8
尿素系接着剤	4	3	2
小麦粉少量	〃	〃	〃
可使時間	110分	200分	200分

註 尿素接着剤...100 硬化剤...10

##### b. 熱圧 (ホットプレス)

##### 混合例

醋酸ビニール接着剤	100g
尿素	80g
小麦粉	30g
水	少量

- (1) 圧縮力 5 Kg/cm<sup>2</sup>
- (2) 時間 2~3分
- (3) 温度 100°~80°

4. 成 果 製品の種類, 使用目的, 大きさ, 加工法によつて適当な接着剤を選択する  
又端部曲げ加工した場所は剝離の原因となるので接着剤は十分塗布する。  
今后新材料の利用に対し, よく研究し新用途に大いに活用すべきである。

#### (14) 竹合板の塗装研究

1. 担当者 工業技師 大迫常盛
2. 目的 一般に竹材に使用されている, 塗料は, アミノ酸樹脂塗料が主であり, 竹合板の場合, 木材桧板と同様, 塗装工程を最少限にして竹孔をうめる塗料が必要であり, これに適する塗料の選定, 並に塗装を各様の方法で行い, 竹合板に対する塗装の効果を試みた。
3. 概要
  - a 試験材 竹合板 (各種)
  - b 使用塗料
    1. アミノ酸樹脂塗料 マーブラック, リウタン
    2. ポリウレタン樹脂塗料 ポリウレタンクリヤーポリウレタンサデング
    3. アクリル ク フラツトコーガ
    4. 硝化セキ素系塗料 フラツトクリヤ クリヤラツカーウッドシラ ー
    5. カ シ ュ ー
  - c 工 程
 

① 下塗アミノ酸樹脂シーラー 下塗=ポリウレタンシーラー  
上 ク クリヤー 上ク=ポリウレタンクリヤ若しくは平艶
4. 成 果 素材が決定的なものであり, 用途に応じて耐候性を考慮に入れ密着性のある塗料を選定使用した。工程も2工程で仕上げる様実施した。  
視覚的に完全と迄いえないが目的に近い結果を得た。

#### (15) 新らしい塗装法の研究

1. 担当者 工業技師 大迫常盛  
ク 堀切政幸
2. 目的 塗料は最近の化学工業の発達によつて, 新塗料が次々に出現し, 種々の特性を有し, 数多くの品種ができたので, この新塗料による新しい塗装法の研究を行つた。
3. 概要 a 試験材 本県産材を主材とし, 和洋家具に一般に使用しているものを取りあげた。